

## 研究論文

## 県内「山車まつり」関連製品に向けたモチーフとデザイン

長谷川恵子\*1

## The Motif and Design for Development Products for Float Festival in Aichi

Keiko HASEGAWA\*1

Seto Ceramic Research Center\*1

ユネスコ無形文化遺産登録により注目を集めている「山車(だし)まつり」に着目し、今後需要増が見込まれる山車祭グッズや記念品等の開発に向けて、県内の主要山車祭について、土産品等の現状、山車祭に見られるモチーフや山車の形式等を実地に調査した。その結果を基に山車の形式をモチーフとして多様な製品アイテム、用途に展開できる加飾用の絵柄素材をデザインし、具体的な祭を想定した絵柄を展開した。

## 1. はじめに

本県をはじめ、東海、北陸地方は山車祭が盛んな地域であり、中でも本県には、山車を有する祭礼が全国一多く分布し、祭礼数は157件、山車の数は422輛といわれる。平成28年12月に我が国の重要無形文化財指定の山車祭33件が「山、銚、屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産リストへの登録が決定したが、その内全都府県中最多の5件が本県の行事であり、登録された本県の「尾張津島天王祭の車楽舟(だんじりぶね)行事」「知立の山車文楽とからくり」「犬山祭の車山(やま)行事」「亀崎潮干祭の山車行事」「須成祭の車楽船行事と神葎流し」は、人類の無形文化遺産として保護継承されるべきものと位置づけられ、世界的に高い評価を得た。

その動向に伴い、「あいちの山車まつり」の魅力を引き出し発展させる趣旨で、知事を会長とし、県内の山車祭関係70団体31市町で構成する「あいち山車まつり日本一協議会」が発足し、また中部広域連携による観光プロジェクト「昇龍道」では、本県山車祭はじめ中部圏の山車祭が観光コンテンツとしてピックアップされる等、本県の山車祭文化を発信するとともに、地域資源、観光資源として広く活用する動運が高まっている。

陶産地瀬戸は玩具や置物類、いわゆるノベルティの国内一の生産地であり、国内外の観光地や催事の土産品、記念品を手広く手がけており、豊富な製造実績を持つ。しかしながら、産地縮小に伴い、受注量が減少し、また産地から新市場への発信力も低下している。

そこで、昨今の県内外での山車祭の盛り上がり为契机に、関連する土産物、記念品の新規需要が見込まれる山車祭関連製品のデザイン開発を促進することにより、産地陶磁器製造業の新製品開発、新市場、新販路開拓を支

援することとした。

既に一部の祭礼を対象に、土産品開発の進展が見られ、早急な取組みを要することから、本研究では、商品化を視野に山車祭関連分野とのネットワーク構築を図るとともに、県内の主要山車祭の現地調査を行い、山車まつりに見られるモチーフを把握し、これらを活用して様々な製品アイテム、用途の山車祭関連製品に応用展開可能な絵柄素材をデザインした。

## 2. 研究方法

## 2.1 体制

県内外で文化遺産関連事業を広く展開しているNPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークと連携して研究を実施した。連携による事業イメージを図1に示す。

当団体は文化財関連、山車祭関係方面に広いネットワークを持っていることから、その協力を得て山車まつり関連の情報収集、調査を実施し、また、製品開発に向けて企画・デザイン等を協議しながら進めた。

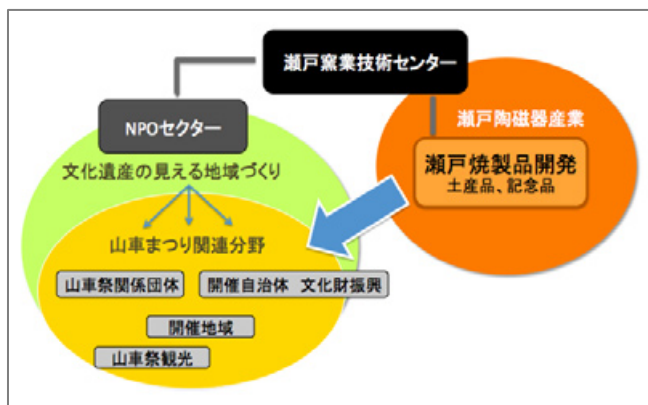


図1 事業イメージ

\*1 瀬戸窯業技術センター 製品開発室

## 2.2 現地調査

ユネスコ無形文化遺産の5行事をはじめ、県下の代表的な山車祭8行事を選定し、祭の現地に赴いて次の調査を行った。調査先は表1のとおりである。

- ① 祭の実施状況：運営、開催地域、交通、観光
- ② 市場調査：土産品等関連グッズ類の現状、取扱状況
- ③ 資料収集：山車祭関連資料、マップ、解説、報告書
- ④ 写真画像・動画撮影：祭風景、山車、山車装飾等

表1 調査先

	調査先祭礼行事(所在地)	調査日程
★	犬山祭(犬山市)	4月3日本楽
	岡田春まつり(知多市)	4月17日本祭
★	知立まつり(知立市)	5月2日試楽
★	亀崎潮干祭(半田市)	5月3日本楽
	筒井町天王祭(名古屋市東区)	6月5日楽日
	出来町天王祭(名古屋市東区)	6月5日楽日
★	尾張津島天王祭(津島市、愛西市)	7月26、27日
★	須成祭(蟹江市)	8月6、7日

★印:ユネスコ無形文化遺産登録行事(平成28年12月1日登録決定)

## 3. 調査結果と考察

### 3.1 山車祭関連の土産品等の現状とニーズ

調査時はユネスコ無形文化遺産登録前であったが、登録候補の祭の出は格段に増えており、特に鉄道沿線で交通の便の良い犬山祭、尾張津島天王祭は非常にぎわいを見せていた。しかしながら、祭や山車をモチーフとしたお祭関連のお土産品、記念品の現状は、祭の来場者の寡多にかかわらず、質、量ともに乏しいことが判明した。調査結果を表2に示す。

亀崎潮干祭のみ、例外的にオリジナルグッズが多数見受けられたが、これは昭和54年から始まった5年に一度、半田市内10地区31輛の山車が集結する大規模観光イベント「半田山車まつり」の公式認定グッズとして多数の商品が企画・製作され、取扱われたことが、グッズ製作の契機になったと考えられる。

表2 祭グッズ、記念品等の現状と取扱施設等

祭礼行事	山車祭関係お土産品、記念品、グッズ( )内:種類	売店等	祭関連施設数	交通便利※
犬山祭	キーホルダー(1)、菓子(1)	有り	2	◎
岡田春まつり	なし	なし	0	△
知立まつり	なし	なし	0	○
亀崎潮干祭	湯のみ(2)、マグネット、ペーパークラフト(5)、布バッグ、ストラップA(7)、ストラップB(5)、クリアファイル(3)、絵はがき(2)、のれん(2)、手ぬぐい(3)、菓子類	有り	1	○
筒井町天王祭	木製コースタ、木製ストラップ(各5)	臨時売店のみ	0	○
出来町天王祭				
尾張津島天王祭	手ぬぐい(3)、扇子(2)、団扇(1)、菓子(4)、食品(2)、清酒(1)	有り	1	◎
須成祭	なし	なし	0	○

※交通便利については鉄道を利用した場合の会場までの利便を次の基準で表記した。◎:駅から徒歩圏で鉄道増発等あり、○:駅から徒歩圏、△:駅から徒歩圏外

ユネスコ無形文化遺産登録決定を受け、対象の祭礼をはじめ、主要山車祭については、今後県内外、さらに海外からの来場者の増加が見込まれる。今回実施した開催地での聞き取りでは、祭関係者等からは祭を盛り上げアピールするグッズ、祭の観光客からは祭の記念となる土産品の要望を多数確認した。犬山祭、亀崎潮干祭、尾張津島天王祭の開催地には土産物等を扱う店舗や拠点があることから、新規山車祭グッズの取扱いが期待できる。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録された5件の祭を中心に「あいちの山車まつり」を発信する「あいち山車まつり日本一協議会」の活動が活発化していることから、本県山車文化をPRするグッズ類の開発も有望と考えられる。

### 3.2 山車祭に見られるモチーフ

調査を通じ、既存の土産品や記念グッズの大半が山車や山車曳行風景をデザインモチーフとしていることが判明した。その他のモチーフとしては、亀崎潮干祭の一部商品に祭装束の法被「組看袴(くみかんぱん)」とその柄によるデザインが見られた。一方で、祭の取材により、祭礼行事全体に多数の優れた意匠が確認できたことから、現地で撮影した2,428枚の祭の画像と観光資料、報告書等の収集資料から、山車まつりに見られる、デザイン、意匠を整理し、製品のデザインモチーフとなる要素を抽出した。

山車祭を構成する要素としては、①山車、②からくり人形、山車文楽等の山車演芸、③山車に見られる工芸装飾、④山車曳行の見せ場等、祭風景、⑤神事や、そこで用いられる祭具がある。それらは各祭固有の文化的な背景と特徴を持ち、かつ日本の伝統的な意匠や古典的な様式美を有することから、山車祭の優れたデザインモチーフとして関連製品への活用が期待できる。

### 3.3 県内の山車の類型

山車祭は全国に分布し、地域、祭礼により実に様々な

スタイルの山車が存在する。

あいち山車まつり日本一協議会の平成 28 年度調査によれば、本県に現存する山車は 422 輛に上り、それらの山車には特徴を同じくするいくつかの類型が見られる。現地調査を行った本県の特徴的な山車祭 8 件においても主な山車の形式とその特徴が確認できた。

それらは主に山車の構造、形態、装飾による分類であり、本県の山車祭の発祥と伝播、祭礼の地域展開に伴って派生したものと考えられる。調査先はじめ本県主要祭礼に見られる山車形式を表 3 に示す。

表 3 主要山車祭に見られる山車形式

祭礼行事	山車形式・数
犬山祭	犬山型・12 輛、船型・1 輛
岡田春まつり	大田型・3 輛
知立まつり	知立型・5 輛
亀崎潮干祭	知多型・5 輛
筒井町天王祭	名古屋型・2 輛
出来町天王祭	名古屋型 3 輛
尾張津島天王祭	巻藁船→車楽船・5 艘 車楽船・1 艘
須成祭	巻藁船→車楽船・1 輛
三谷祭	三谷型・4 輛、船型 1 輛

山車は山車祭の中心的なモチーフであり、県下の山車祭を対象に製品開発する上で、山車の構造、形態的な特徴を把握する必要がある。そこで資料と現地調査で確認した山車形式を元に、本県発祥、あるいは本県固有の山車の形式について、主に曳行空間と構造、形態から整理、分類し、特徴を把握した。その結果を表 4 に示す。

表 4 本県の主な山車形式とその構造、特徴

曳行空間	形式	構造	車輪等	輪懸	楫棒	その他	山車芸能	
							からくり	その他
陸	名古屋型	二層・前棚付	外輪四輪	有	前後	県下陸上型山車の原型	有	—
	大田型	二層・前山付	外輪四輪	なし	前後	白木彫刻	有	下木偶(岡田)
	知多型	二層・前山付	内輪四輪	なし	前後	後部垂直に梵天,吹流し(半田) 白木彫刻	有	—
	知立型	二層・前戸屋付	内輪四輪	なし	後	黒漆塗金箔貼	有	山車文楽
	犬山型	三層	外輪四輪	なし	前後	屋根前後に梵天	有	—
水上	車楽船	屋台上・下段	二艘舟 (平行に連結)	—	—	置物人形・造花	なし	—
	巻藁船	屋台上に巻藁提灯		—	—	巻藁提灯・真柱	なし	—
陸・水中	三谷型	二層・山車柱付	内輪四輪	なし	横向き前後	山車柱飾り・海中渡御	なし	—

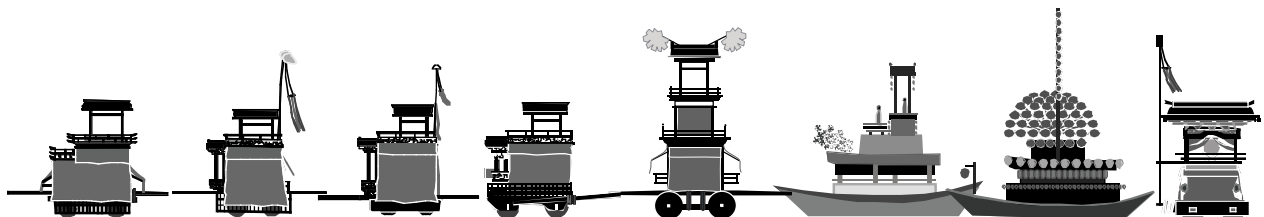


図 2 山車類型による基本のデザイン(左から名古屋型、大田型、知多型、知立型、犬山型、車楽船、巻藁船、三谷型)

## 4. 絵柄の開発

### 4.1 コンセプト

製品を開発する企業の開発期間短縮、経費削減のため、「あいちの山車まつり」PR ツールや各祭のグッズ等の製品に広く活用できる加飾用絵柄をデザインすることとし、①メーカーの持つ既製の素地の活用を想定し、様々なアイテム、加飾に応用展開できること②製品化に際して多様なアレンジやバリエーション展開が可能であることの 2 点を条件として基本的な絵柄とアレンジ方法を考案した。

### 4.2 デザイン

山車をモチーフとし、山車の形の特徴や面白さを活かすこととした。開発コンセプトに沿って、アレンジによりシリーズ展開可能な、①本県の特徴的な山車の型をモチーフとした絵柄、②山車のイメージをピクトグラム風に簡略化、象徴化した絵柄の 2 シリーズをデザインし、転写紙の版下としての使用を想定して、モノクロで表現した。

#### 4.2.1 山車類型によるデザイン

本県の特徴的な山車類型、名古屋型、犬山型、知多型、巻藁船、車楽船、三谷型、大田型、知立型をモチーフとし、それぞれの形の面白さと特徴を活かして山車を側面から表現したデザインである。基本形を図 2 に示す。

これらの画像は次の手法により多様にアレンジできる。

- ① 傾ける：動きと躍動感を表現
- ② 拡大縮小：サイズ違いを並べ、遠近感を表現
- ③ 特定の祭の特徴要素を加える→〇〇祭の山車
- ④ 特定の山車の特徴要素を加える→〇〇祭の□□車
- ⑤ 各祭の特徴的景観や要素を加える→〇〇祭風景

⑥ 山車を操る人等人物群を加える→山車の曳行風景

また、同じ山車を複数並べて「〇〇祭 山車勢揃い」、また複数種類の山車を並べて「あいち山車絵巻」とする等、対象や用途に応じて様々なイメージの絵柄を展開することができる。アレンジ例を図3、4に示す。

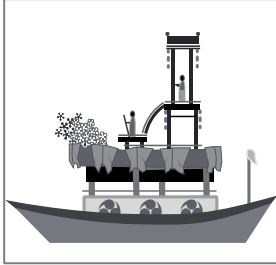


図3 アレンジ例1



図4 アレンジ例2

図3は車楽船の基本デザインに、小袖幕、屋台下幕の三つ巴紋といった尾張津島天王祭の市江車(いちえぐるま)固有の特徴要素を加えることで尾張津島天王祭の朝祭に出船する市江車にアレンジした例であり、図4は三谷型山車の基本形に三谷祭中区の花山車の山車柱飾りと波を加え、山車を傾けて動きを加えることにより、三谷祭花山車の海中渡御(かいちゅうとぎよ)風景とした例である。

具体的な祭を想定した絵柄の展開例として、巻藁船、車楽船を尾張津島天王祭用にアレンジした絵柄を図5、6に示す。

#### 4.2.2 山車を簡略化したシンボリックなデザイン

尾張地方を中心に広く分布する「名古屋型」は山車形式の中でも発祥が古く、本県だけでなく東海地域を代表する山車形式の一つであることから、名古屋型山車を素材として「山車」をシンプルに表現したピクトグラム風



図5 尾張津島天王祭・宵祭(巻藁舟と花火)

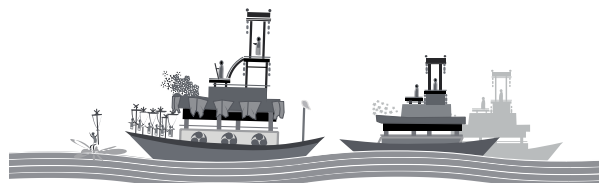


図6 尾張津島天王祭・朝祭(市江車鉾持ち飛び込み)

の絵柄を作成した。左右対称な正面向きとし、名古屋型山車の「外輪式二層構造で、からくり人形を搭載する」という最小限の特徴を残して細部を省略し簡略化することにより、特定の山車の要素を取り払い、「山車というもの」の持つイメージを象徴的に表現した。屋根の形が切妻のものと唐破風のもの2種類作成し、上山部分にはからくり人形のシルエットを、側面には宵祭に飾られる提灯のイメージを配した(図7)。

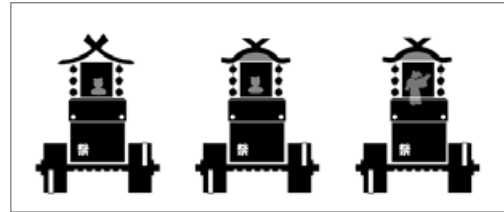


図7 簡略化によるシンボリックなデザイン

このシリーズは、名古屋型から派生した別形式の外輪式山車の特徴要素を加えることで、容易に別型山車の絵柄に加工することができる。その一例として犬山型に特有の「三層構造、屋根に梵天(ポータン)」という要素を加えて、犬山祭グッズ用として展開した絵柄を図8に示す。これはNPO 法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークと共同でデザインした。



図8 絵柄展開例(犬山祭)

## 5. 結び

今後需要が見込まれる「山車まつり」の土産品や記念品開発に向けて、県内の主要山車祭を調査し、デザインモチーフや山車の類型を把握した。山車をモチーフに山車祭関連の様々な用途、アイテムに広く応用、展開できる絵柄素材として①県内の山車類型を活かした絵柄、②山車を簡略化したシンボリックな絵柄をデザインし、簡易なアレンジによる絵柄展開方法を考案して尾張津島天王祭、犬山祭等、具体的な祭を想定した絵柄を展開した。

## 謝辞

本研究の実施にあたり、調査、企画等にご協力いただいたNPO 法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークの理事長赤塚次郎様はじめ皆様に厚くお礼申し上げます。